

【宝登山：奥宮】

宝登山（497 m）の頂上にある宝登山神社の奥宮は、この山で最古の信仰の場所である。言い伝えによると、日本の伝説上の第十二代天皇である景行天皇のご子息であった日本武尊により、西暦 110 年に創建された。日本武尊は、東北地方平定のために派遣されていたが、その帰りに宝登山の近くを通った際、その山の美しさと神秘的な雰囲気に関心をもち、心を奪われた皇子は、山に登ることにした。皇子とその家臣らは、まず、山の麓の近くにあった泉で身を清めることにした（神道の神の領域に入る前の重要な儀式である）。山に登る途中、彼らは突然激しい炎に囲まれていることに気付いた。彼らに命の危機が迫った時、黒と白のオオカミが現れ炎を消したという。そしてオオカミは皇子とその家臣を山頂に導き、消えていった。山の神がオオカミを遣わしたのだと悟った日本武尊は、命が救われたことに心から感謝した。

皇子はその後、この場所に「神籬」（文字通り「神に捧げる垣根」）と呼ばれる簡素な祠を立て、日本の第一代天皇と伝えられている神武天皇、神道の山の神の一人である大山祇神、神道における火の神である火産霊神を祀った。今日でも、これらの三体の神は宝登山神社の公式な御祭神であり、神秘的なオオカミは神のお使い（御眷属）として崇められている。

毎年 5 月 2 日に、奥宮創立の由緒にちなんで「つつじ祭り」とも呼ばれる奥宮祭が催される。この祭りでは、日本武尊の御神霊を神輿に乗せ、山の麓にある本堂から山頂まで運ぶ。山頂では、日本武尊への崇敬の念を表して祈りや神聖な舞が行われる。